



神崎小だより



学校教育目標…自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成
めざす児童像…なかよく かしこく たくましく やりぬく
合言葉…【笑顔(スマイル)】 【行動(フットワーク)】 【協力(サポート)】
〈 早寝・早起き・朝ご飯 〉

楽しみな行事

ある朝のことです。低学年の子に「おはようございます。」と声をかけると「おはようございます。校長先生、あー明日が楽しみだなあ。」と返事が返ってきました。「何が楽しみなの？」と聞くと「明日、遠足なんです！」と満面の笑みで答えが返ってきました。その子の教室に行くと窓にはたくさんの『てるてる坊主』が貼られていました。

遠足の前の日は、眠れないことがよくあります。わくわくして興奮して眠れなくなるのです。遠足は、それだけ子どもにとってはお楽しみ行事です。そんなお楽しみ遠足ですが、24日には、2年生が『千葉動物公園』へ行ってきました。25日には、4年生が『Kando (カンドゥー)』で職業体験を行ってきました。今後、1年生は秋に『ゆめ牧場』、3年生は『成田方面』、5年生は『宿泊学習会 (小見川青少年自然の家)』そして、6年生は11月に『修学旅行 (箱根方面)』に行く予定です。

コロナによる感染症はまだ収束したとは言えませんが、このような子どもたちが楽しみにしている行事が実施できるようになったことを大変うれしく思います。

ただ、行事を行った際に気をつけなくてはいけないことが一つあります。

私は、小学生の頃とても楽しみにしていた遠足の前日に熱を出し、参加できなかったことがあります。そのときの残念さは筆舌に尽くしがたく、歳をとった今でも鮮明に覚えています。何らかの理由で参加できなかった子への配慮を忘れてはいけません。

マスクの着用 ～状況に応じて着用・はずす判断ができる子に～

マスク着用に関しては、どういった場面で外してよいのかという声や、マスク着用が長期化する中で表情が見えにくくなることによる影響を懸念する声があります。また、これから気温・湿度が高くなる季節になるため、マスクを着用していると熱中症のリスクも高くなることが懸念されます。神崎小学校では、マスクを着用する必要がない場合について、県教育委員会作成のガイドラインに沿って、次のように指導しています。

- ◆十分な身体的距離が確保できる場合
- ◆気温・湿度や暑さ指数(WBGT)が高い日
(熱中症などの健康被害が発生するおそれがある場合)
 - ◎マスクを外す際は、できるだけ人との十分な距離を保つ、近距離での会話を控えるようにするなどの配慮をすることが望ましいが、熱中症も命に関わる危険があることから、熱中症への対応を優先する。
 - ◎児童本人が暑さで息苦しいと感じた時などは、マスクをはずす。
 - ◎登下校中については、他の人と十分な身体的距離が確保できる場合。
- ◆体育の授業及び運動部活動
運動時は身体へのリスクを考慮し、マスクの着用は必要ない。
- ◆授業中黙って活動する場面

これから気温・湿度がさらに高くなることから、「登下校で熱中症の恐れがあるときは、マスクをはずしていいんだよ。」とご家庭でも声をかけてあげてください。

場や状況に応じてマスクを着用する、はずすことの判断ができることが大切だと考えます。